

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2020.2.12

No.461



業況 BSI 3 期ぶりに低下、二桁マイナス (2019 年 10～12 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 2019 年 10～12 月期の県内企業の業況実績
2020 年 1～3 月期の県内企業の業況見通し
特別調査 県内企業の 2019 年 冬のボーナス支給状況

調査時期 2020 年 1 月上旬

調査対象企業 県内中堅企業 319 社

回答企業 231 社 (回収率:72.4%)

製造業 55 社 建設業 44 社 卸売業 51 社

小売業 31 社 運輸業・サービス業 50 社

青森地区 80 社 津軽地区 70 社 県南地区 81 社

BSI とは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 2019年10~12月期の業況

(1) 業況 — 3期ぶりに低下、二桁マイナス —

2019年10~12月期の全産業「業況BSI」は前期比19.0ポイント低下の△20.3と3期ぶりに低下し、二桁マイナスとなった。

業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同7.1ポイント減少の20.8%、業況悪化とした企業の割合は同11.9ポイント増加の41.1%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業が前期比21.8ポイント低下の△21.8となった。飲料、生コン、一般機械、電子部品・デバイス、精密機械で悪化の割合が増加した。

非製造業は、小売業、卸売業、運輸・サービス業で悪化した。小売業が前期比39.7

ポイント低下の△32.3、卸売業が同34.3ポイント低下の△43.1、運輸・サービス業が同11.8ポイント低下の0.0となった。

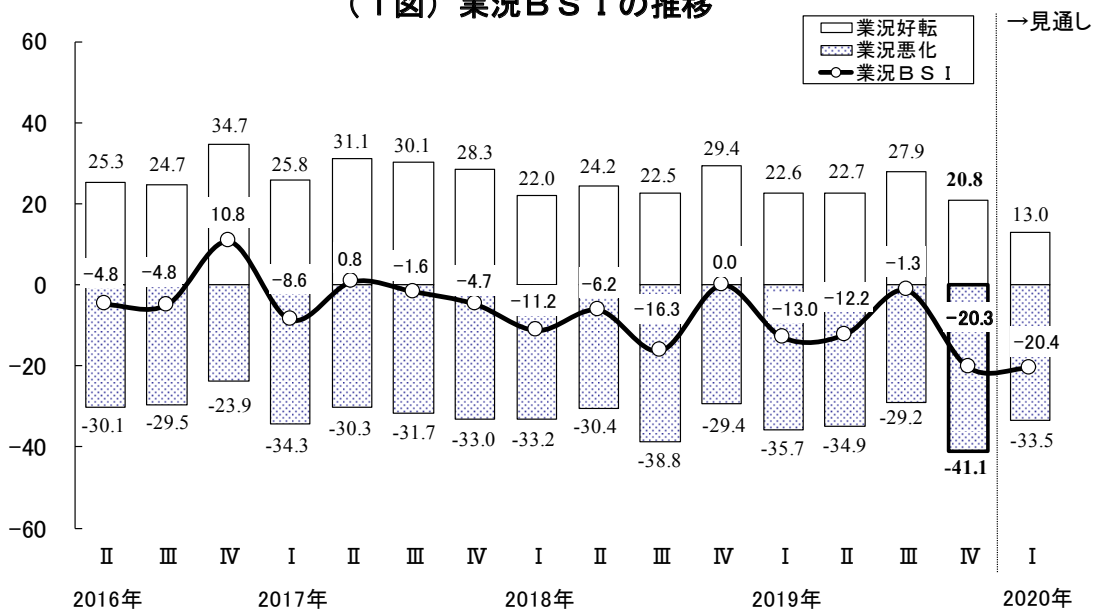
一方、建設業は同6.5ポイント上昇の△6.8となった。

小売業は、自動車と衣料品で悪化割合が増加した。卸売業は、建築材料と衣料品などで悪化割合が増加したほか、飲食料品などで好転割合が減少した。運輸・サービス業は、道路貨物運送で好転割合が減少したほか、鉄道と宿泊で悪化割合が増加した。

一方、建設業は職別工事、設備工事で好転割合が増加した。

(以上、1図、付表 参照)

(1図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
2018年 10 - 12 月期	-10.7	2.4	5.7	-17.2	13.7	0.0
2019年 1 - 3 月期	-26.4	4.8	-20.8	-14.7	-4.2	-13.0
4 - 6 月期	-15.5	-22.7	-5.8	-33.3	5.6	-12.2
7 - 9 月期	0.0	-13.3	-8.8	7.4	11.8	-1.3
10 - 12 月期	-21.8	-6.8	-43.1	-32.3	0.0	-20.3
来期見通し	-7.3	-25.0	-30.0	-45.2	-6.0	-20.4

(2) 採算の状況 —「採算BSI」3期ぶりに低下—

2019年10～12月期の全産業「採算BSI」は3期ぶりに低下し、前期比3.3ポイント低下の△9.4となった。

採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同0.6ポイント減少の9.9%、一方、採算悪化とした企業の割合は同2.7ポイント増加の19.3%となった。

産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比0.5ポイント上昇の△12.7となった。食料品や非鉄金属などで好転がみられた。

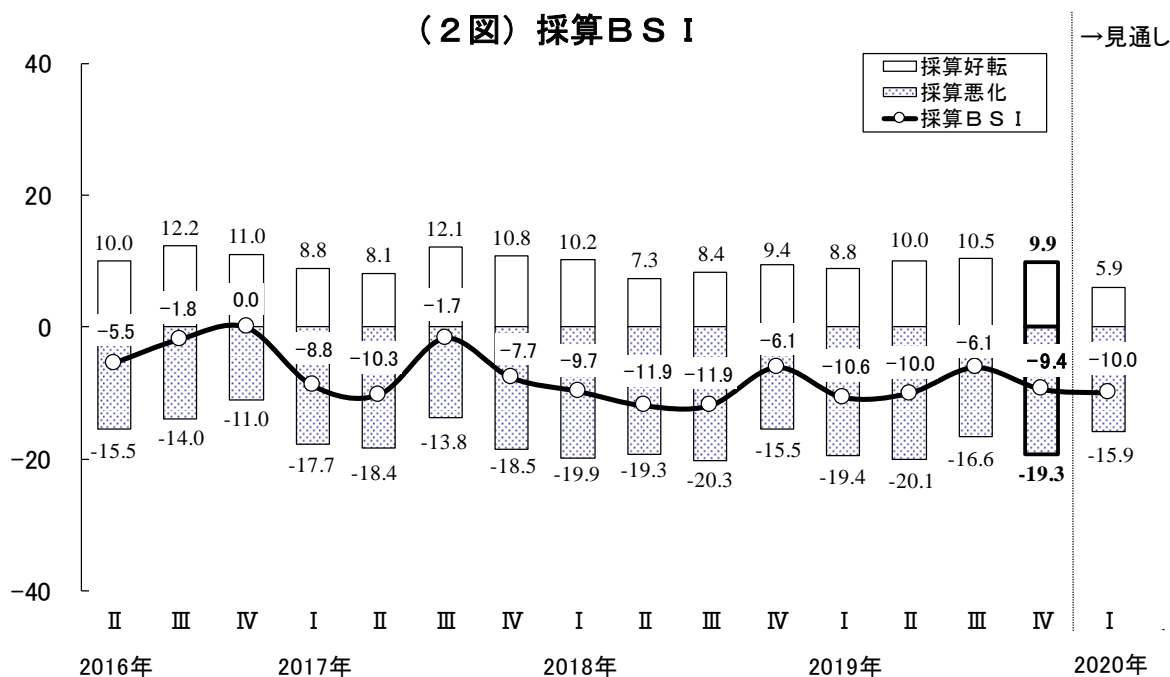
非製造業は、小売業、卸売業、運輸・サービス業で悪化した。小売業が前期比25.4

ポイント低下の△6.9、卸売業が同3.0ポイント低下の△10.0、運輸・サービス業が同0.2ポイント低下の△6.5などと低下した。

一方、建設業は同2.1ポイント上昇の△9.3と好転した。

小売業は自動車、衣料品で悪化割合が増加、家具で好転割合が減少した。卸売業は飲食料品や建築資材で悪化割合が増加した。運輸・サービス業は、道路貨物運送、宿泊で悪化割合が増加した。一方、建設業は、総合工事で悪化割合が増加したもの、職別工事で好転割合が増加した。

(以上2図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
2018年 10 - 12 月期	-18.9	5.3	-2.0	-7.7	-4.3	-6.1
2019年 1 - 3 月期	-21.2	-10.0	-4.0	-18.2	0.0	-10.6
4 - 6 月期	-10.5	-18.6	-2.0	-20.7	-4.1	-10.0
7 - 9 月期	-13.2	-11.4	-7.0	18.5	-6.3	-6.1
10 - 12 月期	-12.7	-9.3	-10.0	-6.9	-6.5	-9.4
来期見通し	-9.1	-9.5	-2.0	-17.2	-15.6	-10.0

(3) 生産高・操業度の状況 —「生産高 BSI」、「操業度 BSI」とも 2 期ぶり低下—

2019 年 10～12 月期の製造業の「生産高 BSI」は前期比 17.4 ポイント低下の△30.9 と、2 期ぶりに低下した。

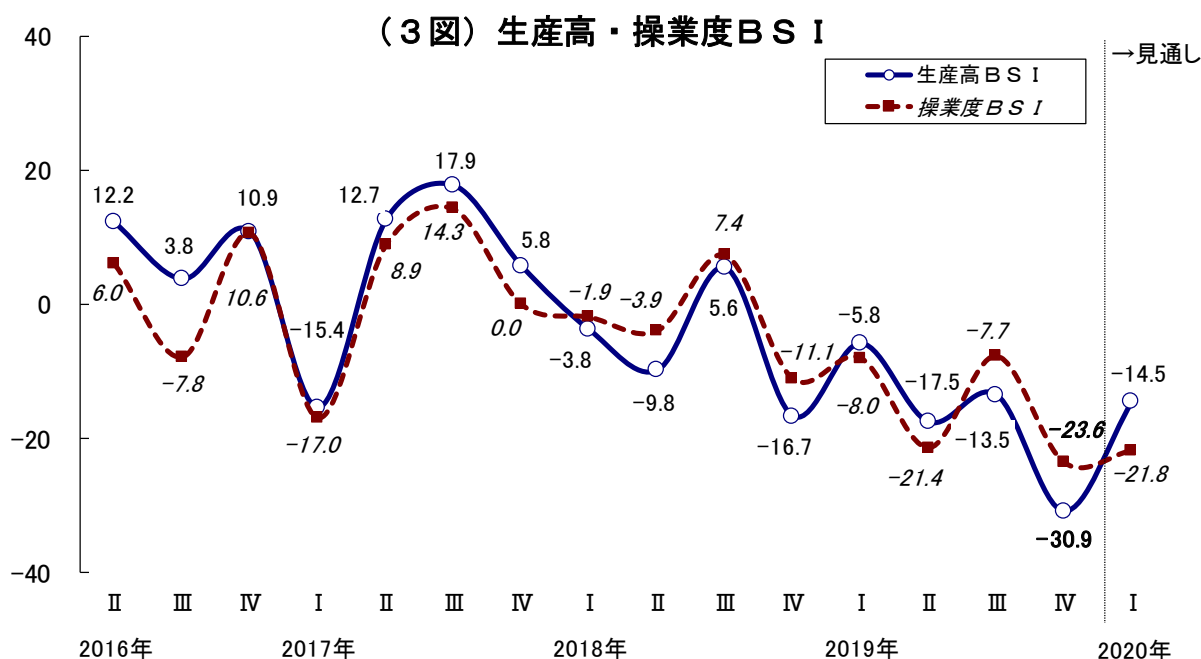
「操業度 BSI」は同 15.9 ポイント低下の△23.6 と、2 期ぶりに低下した。

飲料、印刷、生コン、電子部品・デバイス

などで減産となったほか、印刷、生コン、電子部品・デバイス、一般機械などで稼働率も低下した。

来期は「生産高 BSI」が当期比 16.4 ポイント上昇の△14.5、「操業度 BSI」が同 1.8 ポイント上昇の△21.8 となる見通しである。

(以上、3 図 参照)



(4) 受注高の状況 —「受注高 BSI」2 期ぶり低下—

2019 年 10～12 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 2.5 ポイント低下の△11.4 となり 2 期ぶりに低下した。

内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 6.1 ポイント減少の 25.0%、一方、受注減少とした企業の割合は同 3.6 ポイント減少の 36.4%となった。

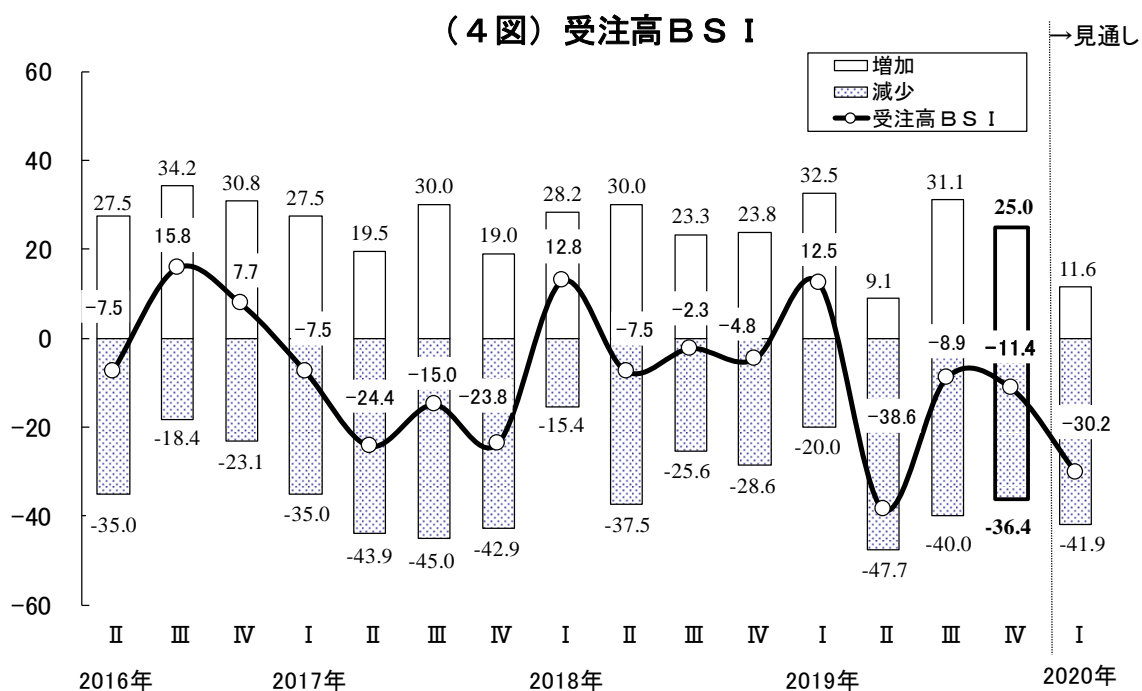
当期は、職別工事で受注増加の割合が

幾分広がったものの、総合工事、設備工事で受注増加の割合が減少した。

来期の「受注高 BSI」は当期比 18.8 ポイント低下の△30.2 となる見通しである。

内訳をみると、受注増加とする割合が当期比 13.4 ポイント減少の 11.6%、受注減少を見込む割合が同 5.5 ポイント増加の 41.9%となっている。

(以上、4 図 参照)



(5) 売上高・出荷高の状況—「売上高BSI」、「出荷高BSI」とも3期ぶり低下—

2019年10～12月期の「売上高BSI」は、前期比27.2ポイント低下の△28.0となり、3期ぶりに低下した。

産業別の「売上高BSI」をみると、小売業が前期比38.2ポイント低下の△41.9、卸売業が同37.6ポイント低下の△41.2、運輸・サービス業が同10.1ポイント低下の△6.0となった。

小売業は、衣料品、自動車で減少割合が増加した。卸売業は、建築材料、その他の卸売業で減少割合が増加した。運輸・サービス業は、情報サービスで増加がみられたものの、鉄道、道路旅客運送、道路貨物運送、ガスで減少割合が増加した。

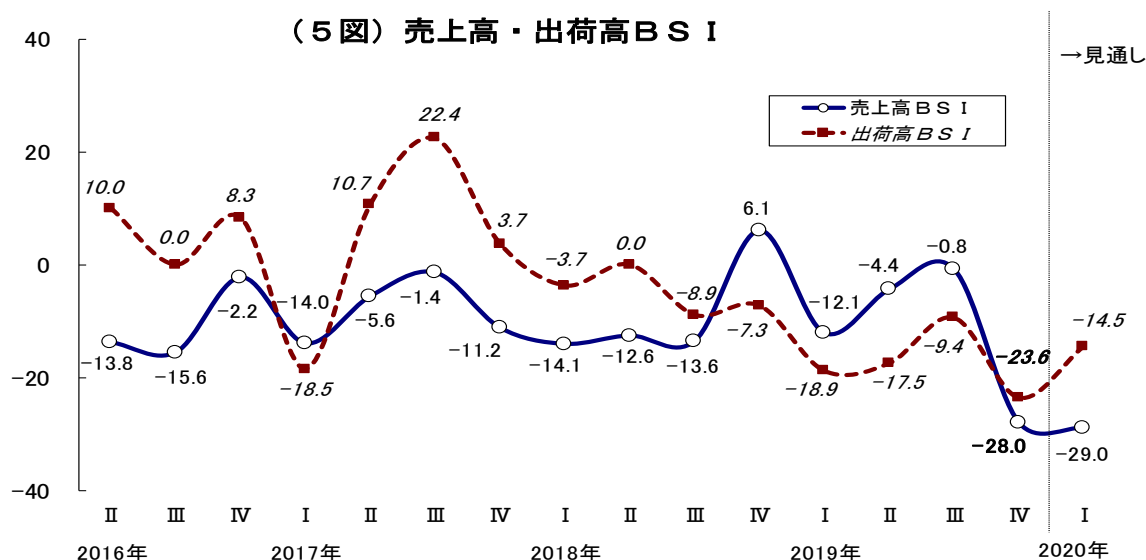
なお、来期の「売上高BSI」は、全体では当期比1.0ポイント低下の△29.0となる見

通しである。小売業は、スーパー、自動車、その他の小売業で減少が見込まれる。運輸・サービス業は、情報サービス、不動産賃貸で減少割合の増加が見込まれる。一方、卸売業は、建築材料、機械器具で減少割合の低下が見込まれる。

2019年10～12月期の「出荷高BSI」は前期比14.2ポイント低下の△23.6と3期ぶりに低下した。飲料、生コン、一般機械、電子部品・デバイス、精密機械などで、出荷減少割合が増加した。

来期の「出荷高BSI」は、当期比9.1ポイント上昇の△14.5となる見通しである。食料品、飲料、電子部品・デバイス、精密機で減少との回答割合の低下が見込まれる。

(以上、5図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
2018年 10 - 12 月期	-7.3	3.8	0.0	12.0	6.1
2019年 1 - 3 月期	-18.9	-21.2	-24.2	6.4	-12.1
4 - 6 月期	-17.5	-3.8	-30.0	9.3	-4.4
7 - 9 月期	-9.4	-3.6	-3.7	4.1	-0.8
10 - 12 月期	-23.6	-41.2	-41.9	-6.0	-28.0
来期見通し	-14.5	-32.0	-45.2	-16.0	-29.0

(6) 価格の状況—「仕入単価 BSI」と「販売単価 BSI」の乖離幅、2 期ぶり縮小—

2019 年 10～12 月期の「仕入単価 BSI」は前期比 9.0 ポイント低下の 24.7 となり、2 期ぶりに低下した。

産業別にみると、製造業が同 19.2 ポイント低下の 20.4、非製造業は同 4.7 ポイント低下の 26.7 となった。

製造業は、食品、生コンなどの業種で低下がみられた。

非製造業は、小売業が前期比 23.3 ポイント低下の 3.6、卸売業が同 7.7 ポイント低下の 25.0 となった。一方、建設業は、同 12.5 ポイント上昇の 45.0 となった。

小売業は、衣料品、自動車、燃料で上昇割合が減少した。卸売業は青果物、建築材料、機械器具で上昇割合が減少した。一方、建設業は、総合工事、職別工事、設備工事の全てで上昇割合が増加した。

2019 年 10～12 月期の「販売単価 BSI」は前期比 5.1 ポイント上昇の 11.9 となり、3 期ぶりに上昇した。

産業別にみると、製造業が同 5.4 ポイント

上昇の 16.7、非製造業は同 5.0 ポイント上昇の 10.4 となった。

製造業は、食料品、飲料、一般機械器具などで販売単価の上昇割合が増加した。

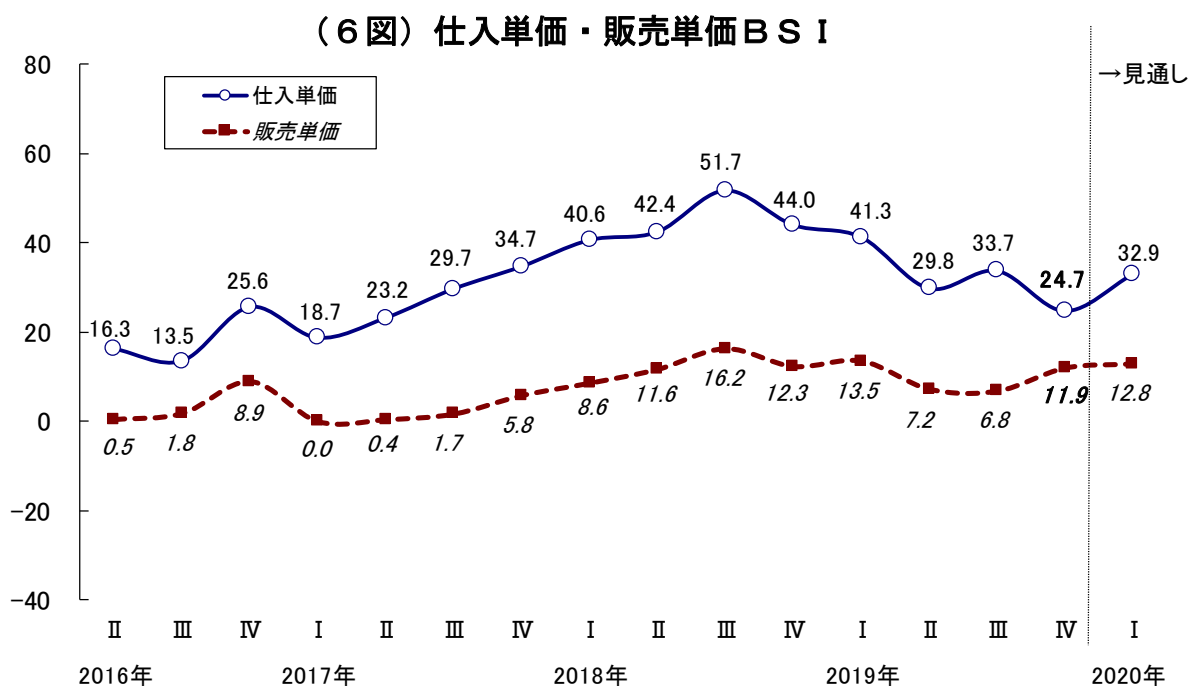
非製造業は、運輸・サービス業が前期比 11.0 ポイント上昇の 27.7、卸売業が同 5.4 ポイント上昇の 14.3、建設業が同 5.4 ポイント上昇の 0.0 となった。一方、小売業は同 2.6 ポイント低下の△10.0 となった。

運輸・サービス業は、鉄道、道路貨物運送、ガス、宿泊で上昇割合が増加した。卸売業は、飲料で低下割合が減少した。建設業は、総合工事で低下割合が減少した。一方、小売業は、自動車と衣料品で低下割合が増加した。

当期は、「仕入単価 BSI」と「販売単価 BSI」との乖離幅が 2 カ月ぶりに縮小した。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 8.2 ポイント上昇の 32.9、「販売単価 BSI」が同 0.9 ポイント上昇の 12.8 となり、両単価の乖離は拡大する見通しである。

(以上、6 図、付表 参照)



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業				非製造業	仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業		
2018年 10 - 12 月期	51.8	39.5	44.2	34.5	40.3	44.0
2019年 1 - 3 月期	50.9	38.9	37.3	34.4	37.0	41.3
4 - 6 月期	29.1	27.0	36.7	22.2	30.1	29.8
7 - 9 月期	39.6	32.5	32.7	26.9	31.4	33.7
10 - 12 月期	20.4	45.0	25.0	3.6	26.7	24.7
来期見通し	33.3	47.5	25.0	25.0	32.8	32.9

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	販売単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	運輸・ サービス		
2018年 10 - 12 月期	14.5	-2.6	26.9	17.9	2.1	11.5	12.3
2019年 1 - 3 月期	7.7	3.0	19.2	21.2	15.6	15.3	13.5
4 - 6 月期	7.1	-11.1	18.0	-10.0	20.0	7.2	7.2
7 - 9 月期	11.3	-5.4	8.9	-7.4	16.7	5.4	6.8
10 - 12 月期	16.7	0.0	14.3	-10.0	27.7	10.4	11.9
来期見通し	22.2	2.6	14.3	6.7	12.8	9.8	12.8

(7) 在庫投資・在庫水準の状況－製造業、非製造業とも手控えの動き－

2019年10～12月期の「在庫投資BSI」は、製造業が前期比11.3ポイント低下の△11.3、非製造業は同9.0ポイント低下の△11.7となった。

製造業は、飲料、印刷、プラスチック製品、一般機械などで手控えの動きがみられた。

非製造業をみると、卸売業では建築材料、小売業では、自動車などで手控えの動きがみられた。

来期の「在庫投資BSI」は、製造業が当期比9.4ポイント上昇の△1.9、非製造業は同5.2ポイント低下の△16.9と、製造業は積み増し、非製造業は手控えの動きが見込まれる。

2019年10～12月期の「製品・商品在庫水準BSI」は、製造業が前期比1.9ポイント低下の1.9、卸・小売業は同2.7ポイント低下の6.9となった。

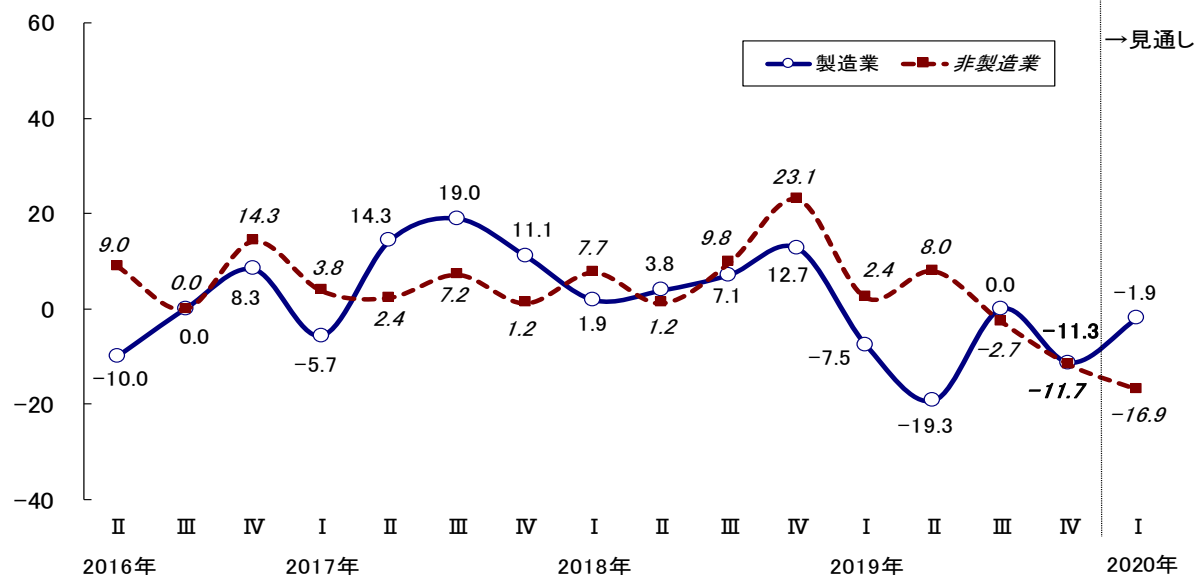
製造業では、食料品、飲料、鉄鋼で低下がみられた。

非製造業をみると、卸売業では、青果物などで低下がみられた。小売業では、各種商品小売業で過剰から適正在庫となった先がみられた。

来期は、製品では飲料で、商品では飲食料品などで手控えの動きがみられるものの、ほぼ適正水準が見込まれる。

(以上、7図、付表 参照)

(7図) 在庫投資BSI (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	卸・小売業
2018年 10 - 12 月期	12.7	23.1	-1.9	13.5
2019年 1 - 3 月期	-7.5	2.4	-5.8	17.7
4 - 6 月期	-19.3	8.0	3.4	24.0
7 - 9 月期	0.0	-2.7	3.8	9.6
10 - 12 月期	-11.3	-11.7	1.9	6.9
来期見通し	-1.9	-16.9	-6.0	4.2

(8) 設備投資の動向

—製造業低下、非製造業上昇—

2019年10～12月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比22.8ポイント低下の△17.0、非製造業は同1.8ポイント上昇の0.0となった。

製造業では、生コンなどで、非製造業では、建設業で総合工事、卸売業で飲食料品、建築材料などで増加がみられた。

投資内容をみると、製造業は、飲料で製造設備、パルプ・紙で子会社資産買収、精密機械で放電加工機増設などがみられた。

非製造業では、建設業で、ソフトウェア導入やアパートの購入、車両や工具の購入などがみられた。

卸売業では、飲食料品で外国人研修生

寄宿舍、建築材料で本社移転、本社ビル改修などがみられた。

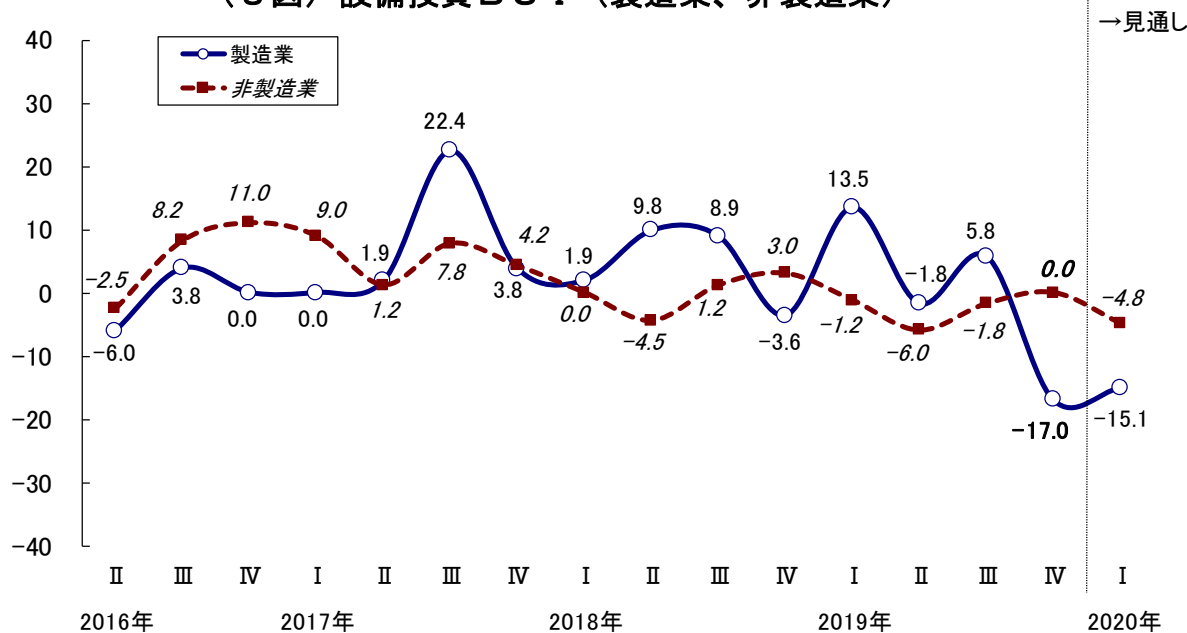
小売業では、スーパーで店舗改装・冷蔵設備入替、新規出店・既存設備更新などがみられた。

運輸・サービス業では、道路貨物運送で土地、設備の維持更新、ガスでガス管入替等がみられた。

来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比1.9ポイント上昇の△15.1、非製造業が同4.8ポイント低下の△4.8が見込まれている。

(以上、8図 参照)

(8図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)

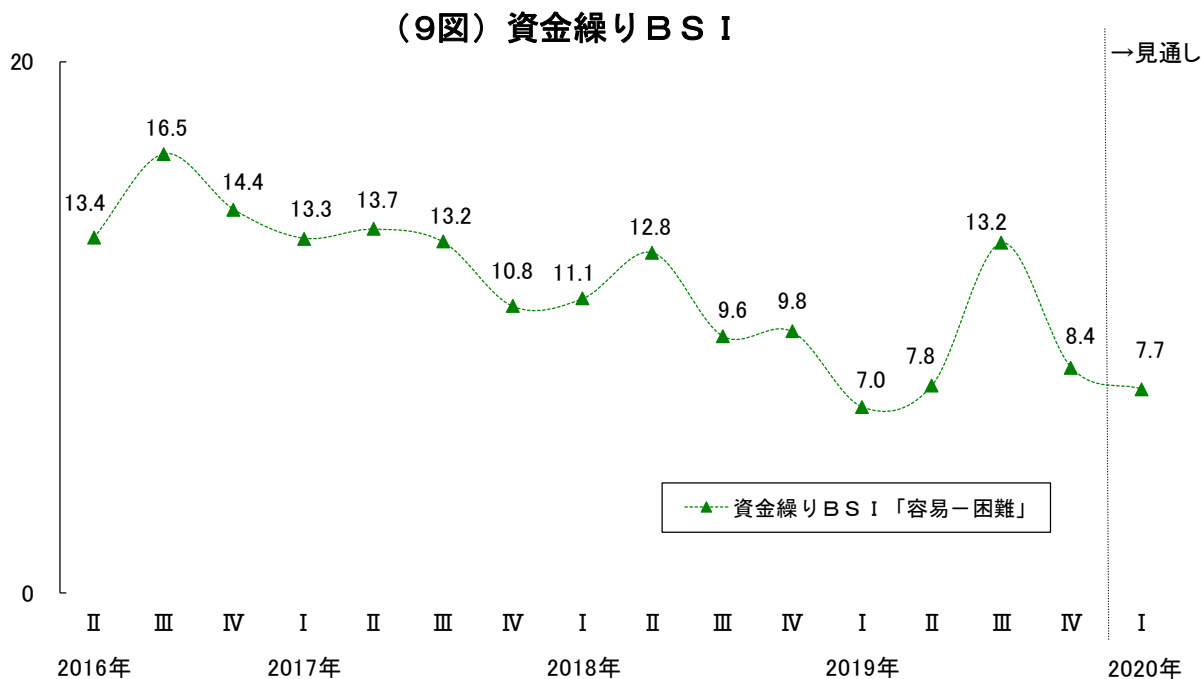


(9) 企業金融の動向 —資金繰りの容易さ低下—

2019年10～12月期の「資金繰りBSI」は前期比4.8ポイント低下の8.4となり、手元資金の資金繰りの容易さが低下した。

来期は当期比0.7ポイント低下の7.7となる見通しであるが、全体にはほぼ適正範囲内での動きが見込まれている。

(以上、9図、付表 参照)



(付表) 資金繰りBSIの推移

	資金繰りBSI (容易-困難)
2018年 10 - 12 月期	9.8
2019年 1 - 3 月期	7.0
4 - 6 月期	7.8
7 - 9 月期	13.2
10 - 12 月期	8.4
来期見通し	7.7

(10) 地区別の状況 —「業況BSI」青森、津軽、県南とも低下—

・青森地区

「業況BSI」が前期比17.6ポイント低下の△22.5となった。

そのほか「生産高BSI」が同12.5ポイント低下の△31.3、「出荷高BSI」が同12.5ポイント低下の△18.8、「売上高BSI」が同36.1ポイント低下の△32.0、「設備投資BSI」が同10.3ポイント低下の10.3、「受注高BSI」が同28.6ポイント上昇の△14.3、などとなった。

・津軽地区

「業況BSI」が前期比9.9ポイント低下の△17.1となった。

そのほか、「生産高BSI」が同16.7ポイント上昇の6.7、「出荷高BSI」が同6.7

ポイント上昇の6.7、「売上高BSI」が同10.6ポイント低下の△23.1、「受注高BSI」は同6.6ポイント上昇の12.5、「設備投資BSI」が同4.3ポイント低下の△9.1、「採算BSI」が同2.9ポイント上昇の△9.0などとなった。

・県南地区

「業況BSI」が前期比28.2ポイント低下の△21.0となった。

そのほか「生産高BSI」が同42.7ポイント低下の△54.2、「出荷高BSI」が同30.4ポイント低下の△45.8、「売上高BSI」が同32.6ポイント低下の△27.9、「受注高BSI」が同42.8ポイント低下の△35.7などとなった。
(以上、1表参照)

(1表) 地域別BSIの推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2018年 10 - 12 月期	3.5	-1.5	-2.5	-33.3	-28.6	0.0	-33.3	-20.0	16.0
2019年 1 - 3 月期	-8.3	-24.6	-8.6	-6.7	-9.1	-3.8	-6.7	-50.0	-11.5
4 - 6 月期	-10.3	-21.7	-6.1	-17.6	-15.4	-18.5	-11.8	-15.4	-22.2
7 - 9 月期	-4.9	-7.2	7.2	-18.8	-10.0	-11.5	-6.3	0.0	-15.4
10 - 12 月期	-22.5	-17.1	-21.0	-31.3	6.7	-54.2	-18.8	6.7	-45.8
来期見通し	-18.8	-17.1	-25.0	-12.5	-6.7	-20.8	-12.5	-13.3	-16.7
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2018年 10 - 12 月期	10.5	8.6	-2.6	8.3	-37.5	21.4	11.1	34.4	17.0
2019年 1 - 3 月期	-7.3	-29.7	-2.5	23.1	-13.3	33.3	7.4	-8.8	-6.4
4 - 6 月期	3.6	-17.9	-2.4	-33.3	-37.5	-46.2	13.5	-21.9	-10.4
7 - 9 月期	4.1	-12.5	4.7	-42.9	5.9	7.1	10.6	-18.8	-2.0
10 - 12 月期	-32.0	-23.1	-27.9	-14.3	12.5	-35.7	-2.0	-22.9	-13.0
来期見通し	-18.0	-33.3	-38.1	-35.7	-13.3	-42.9	0.0	-28.6	-8.7
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
2018年 10 - 12 月期	2.5	6.5	-3.9	-6.3	-14.0	0.0	8.8	0.0	17.9
2019年 1 - 3 月期	1.3	-8.1	11.4	-11.3	-21.3	-1.3	5.1	-3.4	16.9
4 - 6 月期	-3.7	-9.4	-2.5	-8.3	-20.6	-3.7	7.1	-4.7	18.3
7 - 9 月期	10.3	-4.8	-6.3	-3.8	-11.9	-3.7	11.3	10.8	16.9
10 - 12 月期	0.0	-9.1	-4.0	-5.2	-9.0	-13.9	10.3	1.5	12.5
来期見通し	-10.4	-10.6	-1.3	-6.6	-18.2	-6.4	10.4	1.5	10.1

2. 経営上の問題点

—「人員不足」が6期連続で最多—

経営上の問題点は、「人員不足」が52.5%と6期連続で最多となった。

以下は、「売上・受注不振」が42.6%、「競争の激化」が38.1%、「人材育成・技術継承」が37.2%、「設備の老朽化」が25.6%、「仕入単価上昇」が23.3%、「営業力不足」が21.5%、「人件費増大」が18.4%、「収益低下」が17.5%など続いた。

当期は、「売上・受注不振」、「営業力不足」、「人材育成・技術継承」、「人員不足」などで前期に比べて回答比率が上昇した一方、「人件費増大」、「収益低下」、「仕入単価上昇」、「設備の老朽化」など

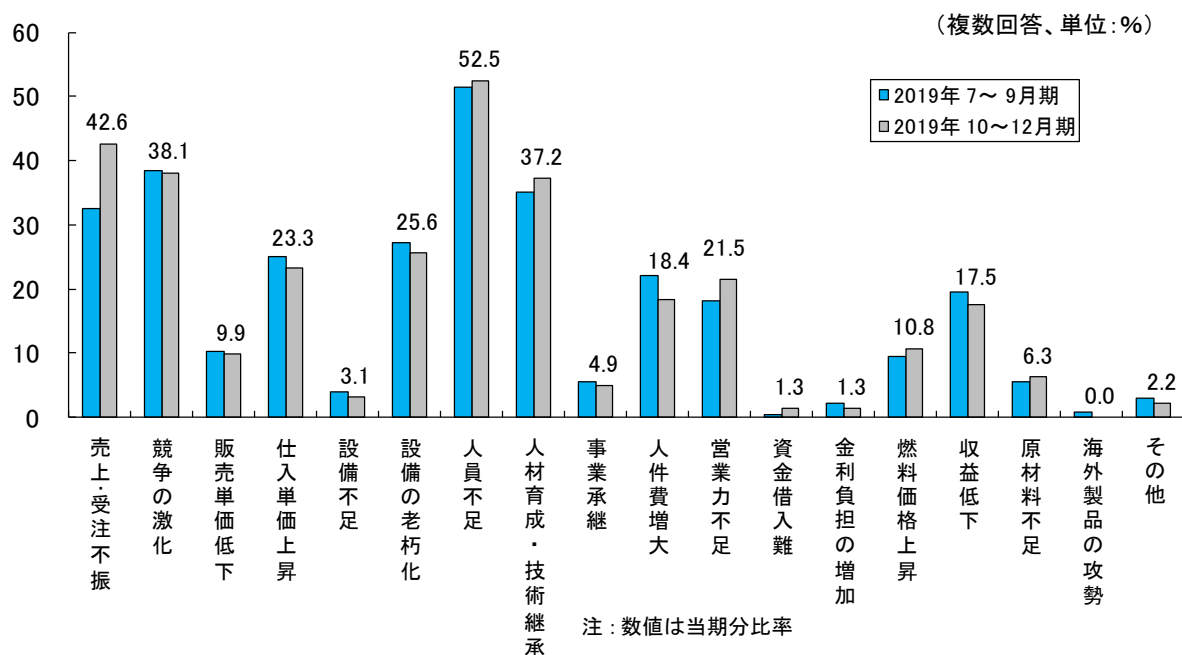
では回答比率が低下した。

産業別に、トップにあげられた経営上の問題点は、製造業と卸売業では「売上不振」、建設業は、「人員不足」と「人材育成・技術継承」が、小売業と運輸・サービス業では「人員不足」となった。また建設業では「競争激化」、製造業では「人員不足」、卸業と小売業では「競争激化」、運輸・サービス業では「売上不振」や「設備の老朽化」の回答比率も高かった。

なお、運輸業の「人員不足」は、今期は81.3%と前期の62.5%より上昇し、一層厳しい状況となっている。

(以上、10図、付表 参照)

(10図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売単価低下	仕入単価上昇	人員不足	人材育成・技術継承	人件費増大	収益低下
2018年 10 - 12 月期	36.0	35.1	11.0	32.5	53.5	36.4	16.7	20.6
2019年 1 - 3 月期	34.4	40.5	11.5	33.9	48.9	38.8	20.3	21.6
4 - 6 月期	39.3	43.2	12.8	24.8	50.0	37.6	16.7	20.1
7 - 9 月期	32.5	38.5	10.4	25.1	51.5	35.1	22.1	19.5
10 - 12 月期	42.6	38.1	9.9	23.3	52.5	37.2	18.4	17.5

3. 来期の見通し

—「業況BSI」、「採算BSI」ともやや低下—

来期(2020年1~3月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比0.1ポイント低下の△20.4となる見通しである。

産業別では、建設業が当期比18.2ポイント低下の△25.0、小売業が同12.9ポイント低下の△45.2、運輸・サービス業が同6.0ポイント低下の△6.0と低下が見込まれる。

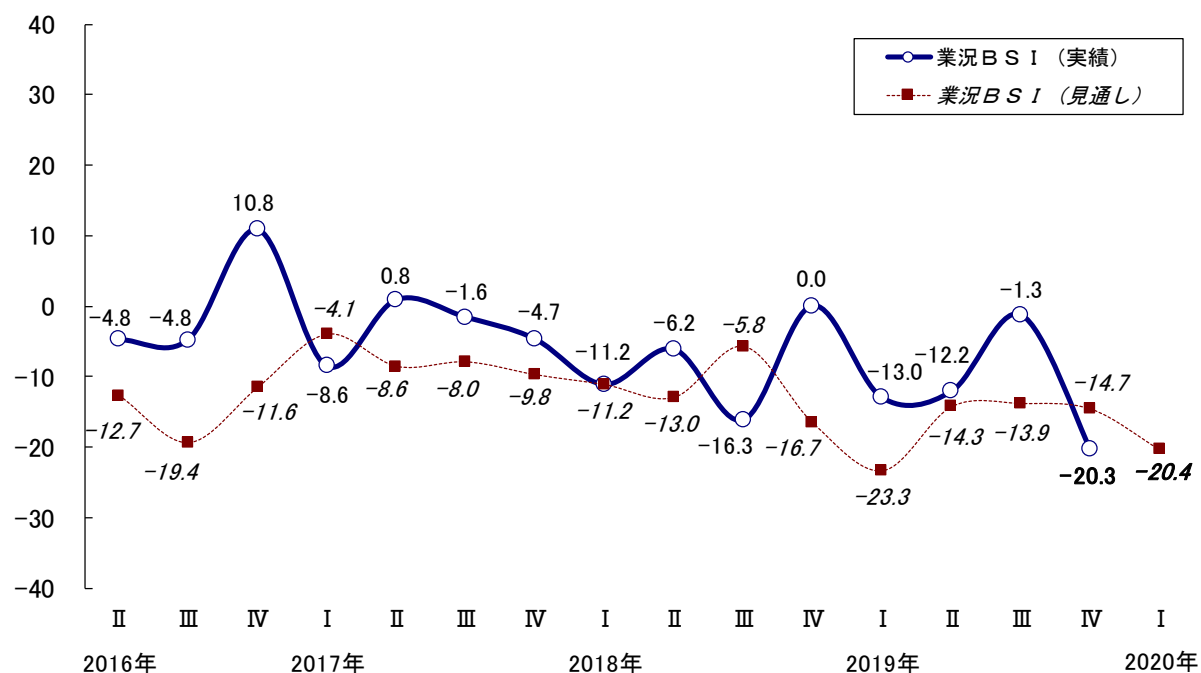
一方、製造業は同14.5ポイント上昇の△7.3、卸売業は同13.1ポイント上昇の△30.0と上昇が見込まれる。

来期(2020年1~3月期)の「採算BSI」は、全産業ベースで当期比0.6ポイント低下の△10.0となる見通しである。

産業別にみると、小売業が当期比10.3ポイント低下の△17.2、運輸・サービス業が同9.1ポイント低下の△15.6、建設業が同0.2ポイント低下の△9.5と見込まれる。

一方、卸売業は同8.0ポイント上昇の△2.0、製造業は同3.6ポイント上昇の△9.1と見込まれる。(以上、11図、付表参照)

(11図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	2019年10-12月期	-21.8	-6.8	-43.1	-32.3	0.0	-20.3
	来期見通し	-7.3	-25.0	-30.0	-45.2	-6.0	-20.4
採算BSI	2019年10-12月期	-12.7	-9.3	-10.0	-6.9	-6.5	-9.4
	来期見通し	-9.1	-9.5	-2.0	-17.2	-15.6	-10.0

【特別調査】 県内企業の2019年冬のボーナス支給状況

業況調査と並行して、県内企業の2019年冬のボーナス支給状況について特別調査を実施した。調査要領は企業業況調査と同様であるが、回答企業は176社であった。

ー平均支給額は前年比1.0%減、5年ぶりマイナス 支給額トップは小売業ー

県内企業の2019年冬のボーナス平均支給額は33万3,288円となり、前年比で率にして1.0%、金額で3,504円下回った。(回答企業の前年冬実績比)

産業別の平均支給額をみると、製造業が前年比0.1%減、金額にして467円減の31万1,622円、一方、非製造業は同1.4%減、4,746円減の34万731円となった。

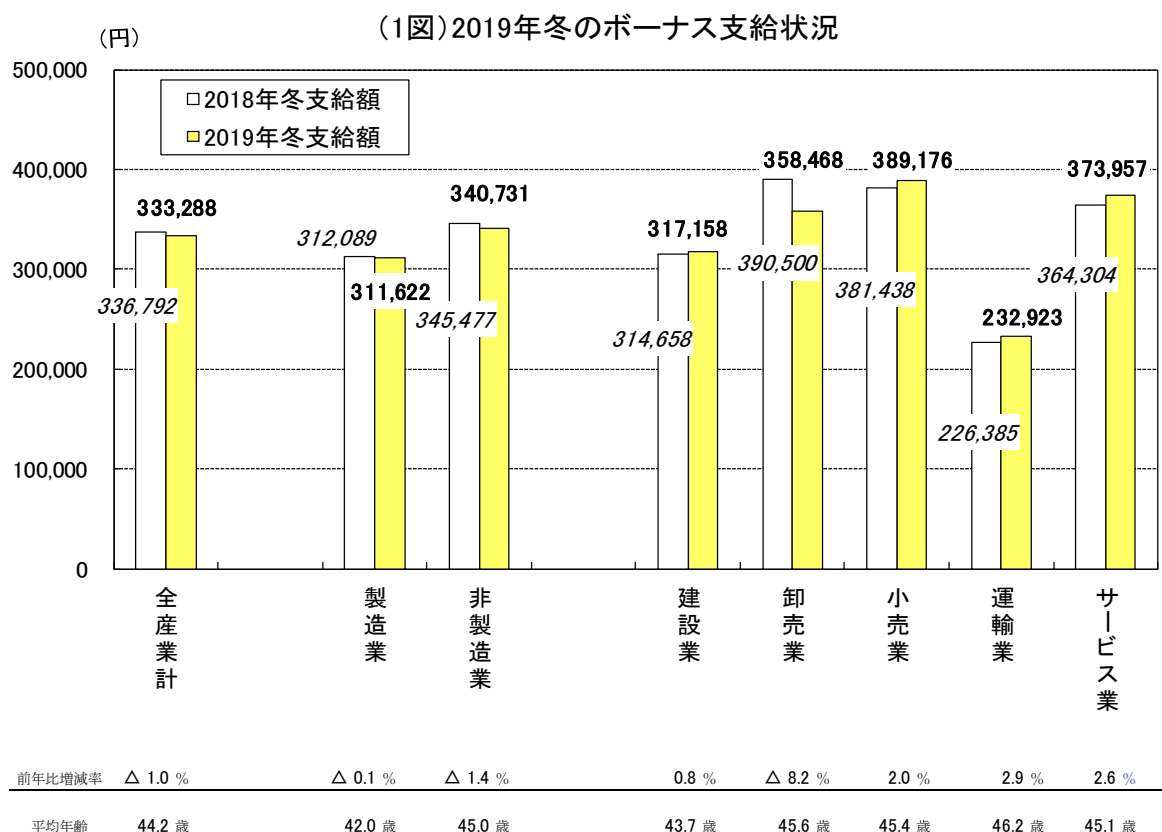
非製造業を業種別にみると、建設業が前年比0.8%増、2,500円増の31万7,158円、卸売業が同8.2%減、3万2,032円減の35万8,468円、小売業が同2.0%増、7,738円増の38万9,176円、

運輸業が同2.9%増、6,538円増の23万2,923円、サービス業が同2.6%増、9,653円増の37万3,957円となった。

今冬のボーナス支給状況をみると、製造業が前年実績を幾分下回ったものの、非製造業では、卸売業以外のすべての業種の、建設業、小売業、運輸業、サービス業が、いずれも前年実績を上回った。

非製造業の業種別のボーナス支給状況をみると、卸売業の3万2,032円の減少が際立ったが、増加額では、サービス業が9,653円と最多であり、以下、小売業の7,738円が続いた。

(以上1図参照)

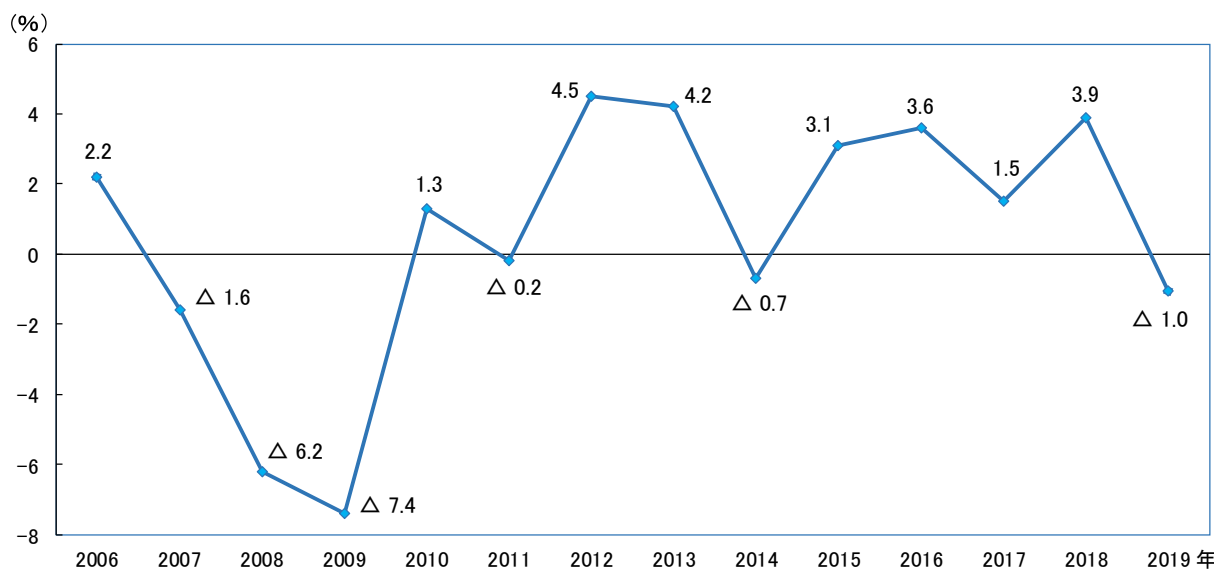


県内企業の冬のボーナス支給状況を前年比増減率で見ると、2015年～2016年は2年連続3%超のプラスで推移した。その後2017年は、1.5%に減少したものの、

2018年は、直近5年で最多となる3.9%となった。4年連続前年比プラスで推移した後、今回は、マイナス1.0%と5年ぶりに前年実績を下回った。

(以上 2図 参照)

(2図)冬のボーナス対前年増減率の推移



【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当 : 竹内 慎司

TEL. 017-777-1511